

学校関係者評価

受審月日 令和2年8月6日（木）

評価者 三田 孝行（松阪中央総合病院院長） 濱口 早弓（松阪中央総合病院看護部長）
 櫻井 正樹（松阪市民病院院長） 眞砂 由利（松阪市民病院看護部長）
 清水 敦哉（済生会松阪総合病院院長） 鶴森 立美（済生会松阪総合病院看護部長）
 松島 聡（済生会明和病院院長） 柳瀬 眞弓（済生会明和病院看護部長）
 土山 美由紀（独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター附属三重中央看護学校副学校長）
 大森 隼一郎（同窓会会長）
 西園 里美（在校生保護者）
 美馬 ちづる（松阪市健康福祉部障がい福祉課障がい福祉係主任）

令和元年度 松阪看護専門学校 学校関係者評価

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	教育理念や目的・目標が地域を捉えた内容となっており、また、講師から授業開始時の目標との関係性の説明をされ、学生が十分に認識できるように取り組んでいると考える。地域へのアンケートを行い、次期カリキュラム改正に向けた課題の明確化もされており、それらをもとに、地域ニーズに応じた具体的な文言の追加を是非検討して頂きたい。
II. 教育課程	カリキュラムの全体構想、各分野の目標が明記されていて適切である。次期カリキュラムでは、医療環境が大きく変化する松阪地区の特徴を教育する科目を入れるなどを期待したい。また、実習での教員と指導者の役割の明確化や協働について、実習病院との連携、協働について今後も務めて頂きたい。
III. 教授・学習・評価過程	教員が講義の自己評価を行い、講義の改善に努めていることは評価できる。外部講師についても、講義の改善に繋がる取り組みを行って頂きたい。教育目標の多面的評価については、教員の講義の自己評価以外に学習進度に応じた評価の実施や卒業時の評価の実施などの工夫がされている。卒業後の評価は教育方法評価の貴重な資料となるので、今後も続けていかれると良い。
IV. 経営・管理過程	設置者の意思・指針は明確にされ、その考えが周知されている。財政基盤も安定されており、設備においては計画的に改善されている。将来構想については、松阪地区の地域医療構想や看護職員の需給状況から将来の看護師養成の展望を持つことは必要かと思われる。今後委員会の立ち上げに期待したい。ホームページの充実・ガイダンスや学校説明会・模擬授業への参加や学校関係者会議の実施など積極的に取り組まれていて評価できる。
V. 入学	入学者選抜についての考え方は、学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項などで示されており、入試に関する分析もなされている。また、地域の医療を支える目的も勘案されている。少子高齢化もあり、優秀な人材を集めるためのアピール方法の検討がこれからも必要と思われる。
VI. 卒業・就業・進学	卒業後の基礎的能力の習得状況や社会人適応能力についての調査を始められ、フォローアップもされ高く評価できる。今後も情報収集・分析され、カリキュラム評価や学校の地域での役割の評価につなげていかれるとよい。次期カリキュラムでは、社会人としての基本的な姿勢や仕事への取組みの基礎となる社会人基礎力が身に着けられるような科目も期待したい。

<p>VII. 地域社会・国際交流</p>	<p>地域には外国人労働者も多く、国ごとの問題点も存在する。現場での問題点を学ぶことは、単なる国際交流以上の利点があると考えます。松阪市に在住する外国人との交流なども検討されるとよい。また、ボランティア活動の実施や、地域の資源活用を学ばれており、今後も地域社会との交流や異文化についても学習を深めて頂きたい。</p>
<p>VIII. 研究</p>	<p>教職員の不足や新人教員が半数を占める状況で、時間の確保が困難であったとしても、研究活動を活発に行うよう努力して頂きたい。研修には積極的に参加されており、今後大学や他の学校との共同研究などの取り組みを期待する。</p>
<p>総評</p>	<p>地域での学校の役割を意識して適切な運営をされている。学校の改善に向け、自己点検・自己評価への取り組みとしてワーキンググループを作り、課題を明確化し、評価改善に取り組んでいるなど、定着した改善への取り組みがなされている。地域が期待する卒業生像に向けて、次期カリキュラムではコミュニケーション能力や社会人基礎力の強化などに向けたカリキュラムの構築を期待する。</p>